

本格導入(2018年4月から)まであとわずか...

必須になる用語や考え方や企業の取組の方向性・課題・解決のアプローチなどを解説!

1名分料金で
2人目無料

費用対効果評価(薬剤経済学)の基礎と実践

◆日時:2017年10月31日(火)12:30~16:30

◆会場:江東区文化センター 3F 第2研修室

◆聴講料:1名につき49,980円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき**47,250円**

・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,980円)**

※大学生、教員のご参加は、1名につき受講料10,800円です。

(ただし、企業在籍者は除きます。また、2人目無料も適用外です。)

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師:クレコンメディカルアセスメント(株)取締役 最高業務責任者(COO) 小林 慎 氏

2016年4月から開始された費用対効果評価の試行的導入は、2018年4月からの本格導入に向けて現在中医協で活発な議論が行われています。製薬・医療機器企業にとって、今後は費用対効果評価(薬剤経済学)の知識が必須のものになることは間違いありません。本講演では、費用対効果評価の基本的な用語や考え方から、現在の中医協の議論の状況と今後の見通し、企業における取組の方向性・課題・解決のアプローチなど、費用対効果評価の本格導入に向けて企業が検討すべきテーマを幅広く網羅します。

1. 費用対効果評価の基本的考え方

(ア) 医療の費用対効果とは?

(イ) ICERとQALY

(ウ) モデルと感度分析

(エ) 費用対効果と医療技術評価(HTA)

2. 費用対効果評価～試行的導入から本格導入へ

(ア) 現在の制度の概要

(1) これまでの経緯

(2) 選定基準

(3) 分析開始からアプリーザルまでのフロー

(イ) 分析ガイドライン

(1) 基本的考え方

(2) 実務における重要ポイント

(ウ) 中医協における議論のアップデート

(1) 費用対効果評価のためのフレームワーク

(2) ICERの閾値

(3) 倫理的、社会的影響等に関する観点とは

(エ) 2018年、2020年・・・未来予想図は?

3. 製薬・医療機器企業の取組のために

(ア) 「価値に見合った価格」の主張

～高価格獲得のために費用対効果をどのように使うのか?

(イ) 価値評価のむつかしさ～QALYを超えた評価方法はあるのか?

(ウ) プロモーションツールとしての費用対効果評価

(エ) 追加的有効性・安全性のパターンで考える出口戦略

(オ) 開発プロセス/プロダクトライフサイクルへの導入

(カ) 人材育成と体制作り

(キ) その他

【質疑応答・名刺交換】

『費用対効果評価』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>